

富田 夏望

バリはただいま雨季の真っ只中です。例年だと、一日に1、2回、1～2時間程度雨がザーッと降って止むぐらいだそうですが、今年の雨はというと、週の半数以上は一日中雨が降っていて、集中的な豪雨の瞬間もあれば、時々止む瞬間もある、といった具合です。地域によっては洪水に見舞われるところもあります。また、このような豪雨だとバイクタクシーも捕まりにくくなります。日本でも雨が降ると体調が悪くなる私にとってはいまが最悪の季節で、一日寝たきりになるという日も少なくなく、心身ともにへたれてしまっています。

そして今月はクリスマスから年末年始にかけてあちこちで催されるイベントや観光客が増えることで、バイク・車タクシーがいつもより倍以上の値段にもなるうえ、渋滞も増えます。交通状況、天候ともに最悪の状態ですが、学期末テストを終えた友人たちと出かけたり、他地域出身の友人の家族がバリに遊びに来てお会いすることもあり、楽しく過ごした日もありました。また、ヒンドゥー教の友人が、自身の Upacara Metatah(ヒンドゥー教の成人の儀式、ヒンドゥー教において重要な儀式の一つ)に招いてくれてお祝いしたり、キリスト教の友人がクリスマスを祝う教会のイベントに連れて行ってくれました。年越しは友人の家でご飯を一緒に食べながら迎えました。



Upacara Metatah お祝いの写真



クリスマスのイベント、若者向けに作られたカジュアルな教会

【日本語学校】

現地の日本語学校に週一でアシスタントに行っています。そこで関わっていた生徒たちが学校での学習を終え、来月からは日本での生活・仕事が始まります。彼らと関わったわずかな時間の中で日本語や日本の生活について教えることができました。彼らから、刺青についてどう思われますか、と聞かれることができました。こちらでは

どの世代の人でも刺青を入れている人がそれなりにいます。しかし日本ではまだ偏見を持たれることが少なくなかったり、一部の若者のファッションの一つぐらいの認識にとどまっています。同じくアシスタントをしている日本人の友人が、「彼らは関わってみるととてもいい人だとわかるのに、刺青で誤解や偏見を持たれてしまったら嫌だよね」と話していました。本当にその通りで、こちらと日本ではもちろん文化慣習や価値観が大きく異なるため、外国人が日本で生活していて冷たい目線で見られることもあります。こちらでは文化慣習が違ってても外国人だからとやさしく受け入れてくれることも多いですが、日本ではまだそういう雰囲気はあまりありません。日本語を教えることはいろんな面がありますが、学習者が自らの権利を守れるようにすることを私は大切にしたいと考えています。学習者と楽しく話しているとなつい忘れそうになる時もあるのですが、常に心がけていきたいです。新しく入った生徒のクラスも始まり、その彼らとこれから関わっていくのが楽しみです。



【おまけ：南国フルーツの写真】

左から、ドリアン、ランブータン、マンゴスチン。

